

小林秀雄著『本居宣長』:各章主題の「關係論」的纏め(二頁)

五章	①孔子の像(物:場 C') ⇒ からの關係: ①を「②直知・粗描」(D1の至大化) ⇒ ②とは「③『孔子の意は浴沂(よくき)詠歸にあり』」(②的概念F) ⇒ E: ③は「④生涯崩れはしなかつた」(③への距離獲得: Eの至大化) ⇒ 青年宣長(△枠): ①への適應正常。
六章	* ①文献的事實(物:場 C') と ②人間(物:場 C') の 事 ⇒ からの關係: ②が担つてゐる『意味のふかき處』(即ち①)を「③知る」(D1の至大化) ⇒ ③には②と「④親しく交はる(我物にする: ③的概念F)」 ⇒ E: ④の「⑤他に道はない(契沖から得た學問の極意)」(④への距離獲得: Eの至大化) ⇒ 宣長(△枠): ①②への適應正常。 * ①學問(物:場 C') ②學者として生きる道(物:場 C') ③契沖の歌學(物:場 C') ⇒ からの關係: ①②とは何か、といふ問ひが③。其の③に「④出會つた」(D1の至大化) ⇒ 「⑤歌學に関する夢」(④の對立的概念F) ⇒ E: ⑤を「⑥開かれたのではない」(Eの至大化) (⑤への距離獲得: Eの至大化) ⇒ 宣長の根本(△枠): ①への適應正常。
七章	* ①契沖『大明眼』の『本意』『意味のふかき處』(物:場 C') ②基本的な思想即ち「歌學」(物:場 C') ③學問の眞(物:場 C') ⇒ からの關係: ①では②は「④俗中の眞である」(D1の至大化) ⇒ 「⑤俗中の俗[世事・狂言綺語(④の對立的概念F)]」 ⇒ E: ③は⑤を「⑥拂へば足りる」(Eの至大化) (⑤への距離獲得: Eの至大化) ⇒ 宣長(△枠)に感得: ①への適應正常。

①(物:場 C'): 五章: 孔子の像(物:場 C')。

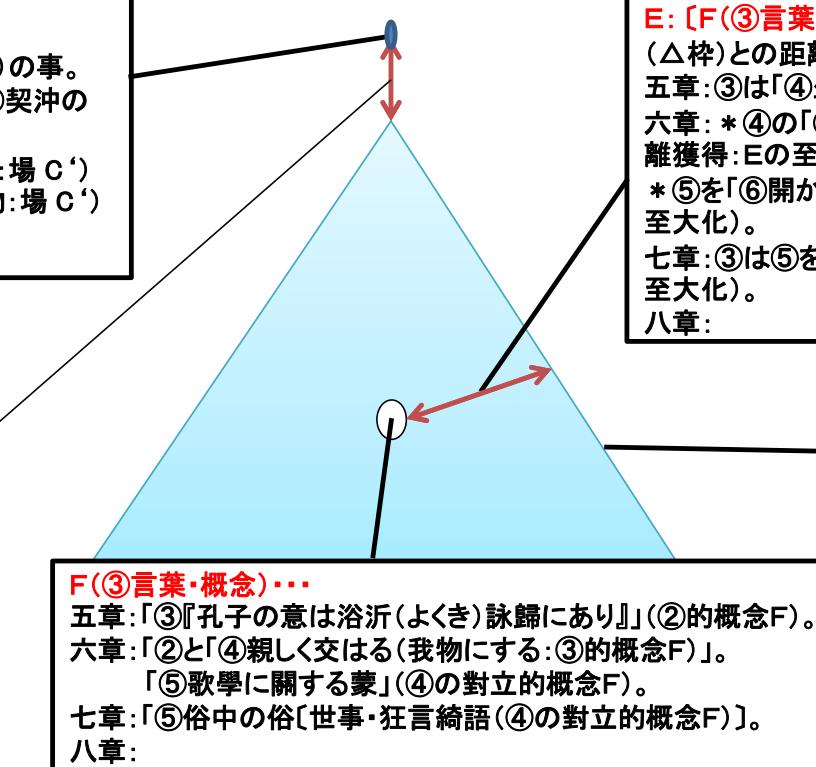
六章: * ①文献的事實(物:場 C') と ②人間(物:場 C') の 事。

* ①學問(物:場 C') ②學者として生きる道(物:場 C') ③契沖の歌學(物:場 C')。

七章: ①契沖『大明眼』の『本意』『意味のふかき處』(物:場 C')

②基本的な思想即ち「歌學」(物:場 C') ③學問の眞(物:場 C')

八章:



② からの關係②(D1の至大化)

五章 ①を「②直知・粗描」(D1の至大化)。

六章 * ②が担つてゐる『意味のふかき處』(即ち①)を「③知る」(D1の至大化)。
* ①②とは何か、といふ問ひが③。其の③に「④出會つた」(D1の至大化)。

七章 * ①では②は「④俗中の眞である」(D1の至大化)。

八章

(△枠)

五章: 青年宣長(△枠): ①への適應正常。

六章: 宣長(△枠): ①②への適應正常。

宣長の根本(△枠): ①への適應正常。

七章: 宣長(△枠)に感得: ①への適應正常。

八章: